音楽学研究総合ゼミ報告

総合ゼミ報告――今年度（2019 年度）の実施状況

永井文音　愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程（音楽学）

はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）は週に一度行われ、音楽学コースに属する学生と教員が集まり、それぞれの研究発表や意見交換をする場である。学生と教員が同じ立場で発表し意見を交換することを目的として 2006 年度に開設された「音楽学コロキアム」が、2008 年度に「音楽学研究総合ゼミ」となってカリキュラムに組み込まれた。音楽学コースの学部生は必修の授業である。

総合ゼミでは、音楽学コースの学生や教員による研究発表のほか、学外の研究者や講師のレクチャーも行われる。本年度は、本学卒業生の方に来ていただく機会が特に多く、さまざまな分野でご活躍の先輩方によるお話を聞くことができた。

以下に、学生による研究発表以外の講座について報告する。

1．2019 年度の総合ゼミにおいて行われた講座（* は本学卒業生）

■ 5 月 9 日　安原雅之（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「病院アウトリーチプロジェクトについて」

■ 5 月 15 日　アンドリアン・ペルトー（愛知県立芸術大学短期外国人客員教授・作曲）
「音楽、数学、そして科学：直感と合理性」

■ 5 月 30 日　東谷護（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「ポピュラー音楽にみるローカル・アイデンティティを考える」

■ 6 月 6 日　安原雅之（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「チャイコフスキー研究について」

■ 6 月 13 日　小林英樹（愛知県立芸術大学名誉教授・油画）
「黒の再発見、黒の解放―レオナルドから印象派の画家まで―」

■ 6 月 20 日　井上さつき（愛知県立芸術大学教授・音楽学）
「万国博覧会とピアノの発展」

■ 6 月 27 日　高梨光正（愛知県立芸術大学准教授・芸術学）
「ロンドン・ナショナル・ギャラリー所蔵　アンドレ・ブーワ作《ラ・バールと音楽家たち》 ―ここに描かれているのは誰か？」

■ 7 月 4 日　森真弓（愛知県立芸術大学准教授・デザイン）
「音楽学の学生のためのインフォグラフィックス講座」

■ 7 月 11 日　籾山陽子 *（名古屋女子大学非常勤講師・音楽学）
「ヘンデル《陽気の人、ふさぎの人、温和な人》の歌詞の扱いと音楽」

■ 7 月 25 日　伊藤円 *（ドレスデン音楽大学講師・コレペティトール）
「ドイツの音楽大学におけるコレペティトールの役割」

■ 10 月 17 日　深堀彩香 *（愛知県立芸術大学非常勤講師・音楽学）
「聖母マリアの謎に迫る―キリシタンとマリアの音楽」

■ 10 月 23 日　フレデリック・ビリエ（ソルボンヌ大学教授・音楽学）
「特別講座　音と画像による中世の音楽―Web サイト Musiconis を使って―」

■ 11 月 7 日　橋本久美子（東京藝術大学非常勤講師・音楽学）
「日本近現代史と音楽教育―紆余曲折ところどころ―」

■ 11 月 14 日　森本頼子 *（名古屋大学非常勤講師・音楽学）
「白系ロシア人によるオペラ文化の伝播――1919、21 年来日の『ロシア大歌劇団』の足跡をたどって――」

■ 11 月 21 日　小林英樹（愛知県立芸術大学名誉教授・油画）
「印象派を深掘りする―モネ、ルノワール、セザンヌ、ドガを中心に」

■ 11 月 28 日　風呂矢早織 *（ジャズピアニスト）
「クラシックピアノからジャズピアノへ―私の歩んだ道―」

■ 12 月 5 日　高梨光正（愛知県立芸術大学准教授・芸術学）
「ロンドン・ナショナル・ギャラリー所蔵アンドレ・ブーワ《ラ・バールと音楽家たち》―ここに描かれているのは誰か？―リヴェンジ」

■ 12 月 12 日　黄木千寿子 *（愛知県立芸術大学非常勤講師・音楽学）
クシシュトフ・ペンデレツキの声楽作品における音と言葉の関係

■ 12 月 19 日　芝崎祐典（中央大学大学院非常勤講師・国際関係史）
「特別講座　敗戦国ドイツの音楽とアメリカ占領軍政府 －ドイツ音楽の越境性・非ナチ化・冷戦－」

■ 1 月 9 日　加藤希央 *（至学館大学非常勤講師・音楽学）
「ピアニストが出会った新美南吉」

■ 1 月 16 日　山口真季子 *（名古屋音楽大学特任講師・音楽学）
「東ドイツにおけるシューベルト没後 125 年祭（1953 年）」

■ 1 月 30 日　初見菜穂子（群馬県済生会前橋病院・医師）
「病院での芸術アウトリーチ――患者心理を知る」

２． おわりに

上記の講座のほか、学生による研究発表は５回（大学院生：3 回、学部４年生：1 回、３年生：1 回）行われた。

本年度も多くの方々にご協力いただき、音楽学にとどまらず、幅広い分野の講座の機会に恵まれた。講演を行っていただいたゲストスピーカーの皆様に感謝を申し上げる。今後も音楽学コース一同、貴重な場である総合ゼミのさらなる発展に努めていきたい。